

現代倫理道德研究会（平成 30 年 11 月 21 日）発表要旨

## 廣池千英研究序説

教育研究室

主任研究員 江島 顕一

本研究の目的は、学校経営者としての廣池千英の理念と実践を明らかにすることである。千英は、周知の通り昭和 13 年 6 月に父である千九郎が逝去した後、その任を引き継ぐこととなった。千九郎の遺した道德科学専攻塾については、戦中を専門学校として乗り越え、そして戦後に短大、大学へと昇格させ、父の悲願を果たした。

本発表では、戦後の学長の時代に焦点を当て、発表者の専門である道德教育と教員養成という視点から、千英の言説を日本教育史に位置づけることを試みた。

千英の教育実践は、学校教育と社会教育の場で実践に移された。教育職員免許法が制定され（昭和 24 年）、麗澤短期大学が開学（昭和 25 年）した直後に教職課程を設置して教員養成に取り組んだ。また、学校にて「特設道德」が設置され（昭和 33 年）たものの、様々な理由でその実質化が図られない中、社会教育の側面から教育者研究会を開催（昭和 38 年）し、道德教育の振興に取り組んだ。このように千英の教育実践は、戦後教育の動向と軌を一にする形で開始されたものであった。